

4月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

行った主な活動

芽かき作業

発芽後の新梢を確認し、1か所から複数出ている芽や、内向き・弱い芽を整理した。必要な芽を残すことで樹勢を分散させ過ぎず、棚面の混み合いを防ぎ、今後の誘引・防除・花穂管理が進めやすい状態に整えた。特に、勢いの強い芽と弱い芽の差を見ながら、残す位置と本数を慎重に判断した。



摘芯作業

伸び過ぎた新梢について、生育の方向と花穂の位置を確認しながら摘芯を行った。先端の伸長を一時的に抑え、花穂や残した葉に養分を回しやすくすることを意識した。摘芯位置が早過ぎると樹勢を弱め、遅過ぎると棚面が混雑するため、樹ごとの生育差を見ながら作業した。



活動を行った感想など

4月は新梢が動き始める重要な時期であり、芽かきや摘芯は単なる整理作業ではなく、今後の樹形づくり、花穂管理、防除効率に直結する管理であると実感した。

芽かきでは、どの芽を残すかによってその後の枝の配置が決まるため、作業前の観察が特に重要であった。摘芯についても、勢いを抑える目的だけでなく、養分の流れを整え、棚面を明るく保つ意味があることを学んだ。

反省点としては、樹勢の強弱や枝の向きを瞬時に判断する力がまだ不足しており、作業の優先順位に迷う場面があった。今後は作業前後の写真と記録を残し、判断基準を整理していきたい。

今後の目標など

今後は、芽かき、摘芯、誘引、花穂整形、防除までの流れを一連の作業として理解し、樹の状態を見て次に必要となる管理を先回りして考えられるようになりたい。特に、残す新梢の本数、摘芯の時期、棚面の明るさ、風通しを継続して観察し、栽培管理の精度向上につなげる。あわせて、指導農家さんの判断基準を記録し、自分の就農準備に活用できる再現性のある技術として定着させることを目標とする。

